

オマーンオフィオライト Wadi Jizzi 地域のスヘイラ層における上部白亜系放散虫生層序

Upper Cretaceous radiolarian biostratigraphy of the Suhaylah Formation in the Wadi Jizzi area of the Oman Ophiolite

原 康祐^{1*}, 栗原 敏之¹

Kousuke Hara^{1*}, Toshiyuki Kurihara¹

¹ 新潟大学大学院自然科学研究科

¹ Graduate School of Science and Technology, Niigata University

オマーンオフィオライトは、テーチスオフィオライトの一部であり、アラビア半島東端のオマーン山脈に沿って露出する世界最大級のオフィオライトである。オフィオライト最上部の噴出溶岩層上には遠洋性堆積物が分布し、スヘイラ層と呼ばれている。スヘイラ層は Fleet and Robertson (1980) によって詳しく研究され、堆積環境の復元が行われた。スヘイラ層から産出する放散虫化石については、Tippit et al. (1981) により概要が報告され、その時代は後期白亜紀 Cenomanian 前期 ~ Santonian とされた。しかし、放散虫化石の詳細な層序分布は不明であり、これ以降、生層序学的な研究は行われていない。本研究は、テーチス海中央部の遠洋性堆積物の発達史とそこに記録された放散虫の進化・変遷を明らかにすることを目的としている。本講演では、Wadi Jizzi 地域の Lasail セクションにおいて行った遠洋性堆積物の岩相層序と産出した放散虫化石について報告する。

Lasail セクションの岩相は、下位より熱水沈殿性の堆積物（以下、熱水堆積物）、頁岩・チャート、ミクライト質石灰岩から構成される。基底の溶岩層については、本セクションでは確認できなかった。熱水堆積物は、暗赤色や橙色のチャートや淡緑色や白色、黒色を呈する変質の著しい粘土質の堆積物からなる。層厚は約 5 m である。頁岩は、熱水堆積物から漸移し、下部は暗赤紫色で上部ほど赤色を呈する。また、頁岩中には、チャートの挟みが発達している。層厚は約 13 m である。ミクライト質石灰岩は、下部の約 4 m は泥質となっており、赤紫色を呈し頁岩から漸移する。上部のミクライト質石灰岩は赤紫色から緑灰色を呈する。また、葉理が発達している。層厚は、泥質部も含めると約 18 m である。

本セクションから採取したサンプルをフッ化水素酸および塩酸で処理することにより放散虫化石が得られた。現在、最下部の暗赤色チャートから保存不良ながら *Pseudodictyomitra pseudomacrocephala* (Squinabol) が得られている。また、赤色頁岩下部に挟在するチャートからは、*Rhopalosyringium scissum* O'Dogherty が得られた。このことから本セクション最下部の熱水堆積物から赤色頁岩下部は、Turonian であると考えられる。赤色頁岩最上部から 1 m ほど上位の赤紫色泥質ミクライト質石灰岩からは、*Dictyomitra koslovae* Foreman が得られた。Hollis and Kimura (2001) では、*D. koslovae* のレンジは Coniacian 後期 ~ Maastrichtian となっており、赤色頁岩からミクライト質石灰岩へ漸移する付近は Coniacian よりも若い年代だと考えられる。

キーワード: オマーンオフィオライト, スヘイラ層, 放散虫, 上部白亜系

Keywords: Oman Ophiolite, Suhaylah Formation, radiolarians, Upper Cretaceous